

CEFR を使った英語力および授業に関する学生アンケート

—金沢大学のアンケート結果より—

Student Survey on English Language Competence Based on CEFR Can-Do Descriptors

大藪 加奈

Oyabu, Kana

Abstract

This is a report on a survey held at Kanazawa University in January, 2010. About 85% of the first year students and some second and third year students have taken part in the survey. The survey was about self-assessed levels of students' English language skills, their assessments on the level of the English courses they were taking, and the levels of English Language ability they wish to attain in the future. The participants used CEFR Can-Do description table (Kanazawa University version), in order to assess levels of individual language skills. The result shows that the highest percentages of students assess their language abilities as B1 in CEFR scale in most skill areas except that of participating in conversation. The result also shows that different students assess the same course quite differently. It also shows that about half of the students wish to attain B2 level, and about one fifth to one third of students wish to attain C1 (or higher) level in English, depending on the skill area.

1. はじめに

金沢大学外国語研究センターでは、厳正な成績評価とそれを可能にする明快な到達目標の作成に関する研究・調査を行っている。この研究・調査をすすめるプロジェクトチーム（プロジェクト A）は、平成 22 年度後期に共通教育英語科目履修者を対象として、CEFR（ヨーロッパ共通言語参照枠）の Can-Do 表を使ったアンケートを行った。このアンケートでは、英語力の自己判断、受講している英語授業のレベル判断、また学期末および大学卒業時までには習得したいと思っている英語力等について問うた。本稿では、実施されたアンケートから得られた学生の英語力に関する自己評価と認識、それらを考慮した授業運営のあり方と到達目標について報告する。

2. アンケートの概要

2.1 実施時期

英語力自己判断アンケートは、平成 22 年 1 月の共通教育英語科目（英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ）の授業時間の一部を使って各クラスの担当教員が実施した。

2.2 実施クラス数および回答数

アンケートの実施を依頼したクラスは、英語Ⅰでは、英語Ⅰ（コミュニケーション）30 クラス、英語Ⅰ（ライティング）25 クラス、英語Ⅰ（リーディング）8 クラス、英語Ⅰ（リスニング）9 クラスである。そのうち回答があったのは、英語Ⅰ（コミュニケーション）25 クラス、英語Ⅰ（ライティング）22 クラス、英語Ⅰ（リーディング）5 クラス、英語Ⅰ（リスニング）9 クラスであった。また英語Ⅱについては、12 クラスに依頼し、9 クラスより回答を得た。また、英語Ⅲについては、6 クラスに依頼し、2 クラスより回答を得た。回答数は、英語Ⅰが 1453、英語Ⅱが 125、英語Ⅲが 16 であった。

また、授業科目名や対象スキル名が記述された回答による、各科目名・スキルごとの回答数は、英語Ⅰ（コミュニケーション）412、英語Ⅰ（ライティング）396、英語Ⅰ（リスニング）205、英語Ⅰ（リーディング）146、英語Ⅱ 108、英語Ⅲ 11 となっている。学年別の内訳は、一年生 1517 名、二年生 70 名、三年生 23 名、四年生 13 名である。金沢大学の一学年の定員は 1800 名であるので、このアンケートには、一年生の約 85% が参加したことになる。ただ、通常定員が 30 名または 40 名のクラスで、回答が 1 または一桁というクラスが 5 つあるなど、試験日に任意でアンケートを行った等の結果、必ずしも全員が回答していないクラスもあった。

2.3 実施クラスの選択基準

英語Ⅰ（コミュニケーション）は全クラスに実施を依頼した。この科目は一年生の前期または後期で全学生が必履修することになっているため、この授業を受講している学生にアンケートを行うことで、最も多くの一年生の回答が得られるからである。また、人間社会学域および医薬保健学域で英語Ⅰ（コミュニケーション）を前期に取った学生が後期に必履修することになっている英語Ⅰ（ライティング）についても、全クラスにアンケートの実施を依頼した。英語Ⅰ（リーディング）と英語Ⅰ（リスニング）については、専任教員が担当している授業の一部で、実施を依頼した。

2.4 アンケートの設問および配布物

このアンケートは、アンケート用紙（付録 1 を参照のこと）、マークシートと共に、金沢大学版 CEFR Can-Do 表記一覧表（付録 2 を参照のこと）を配布して実施した。アンケート用紙は A4 表裏一枚で、学生の所属学類・学年・名列番号を問う欄、授業科目名（問 1）、対象スキル（問 2）、CEFR のスキル区分（「聞くこと」「読むこと」「会話に参加すること」

「口頭で自己表現すること」「書くこと」について、自己判断した英語力（問 3～7）、受講中の授業のレベル判断（問 8）、受講中の授業で学期末までに到達したいレベル（問 9）、問 3～7 と同じスキルについて、大学在学中に到達したい英語運用力（問 10～14）、そして英語のできるようになりたい内容に関する自由記述（問 15）から成り立っている。所属等および問 1 から問 14 はマークシートによる回答、問 15 はアンケート用紙に直接記入する回答方法とした。学生による重複回答を避けるため、一度アンケートを受けた学生は、二回目以降は問 8、問 9 のみ回答するように、アンケートの説明時に指示した他、カードリーダーを使って集計する際、所属学類と名列番号により複数回回答した者を特定して、もし 2 回以上すべての質問に答えている場合は、問 8・問 9 以外は最初の回答のみカウントした。

3. アンケートの実施目的

このアンケートは、以下の目的で実施された。

- (1) CEFR の Can-Do 表記表により、金沢大学英語科目受講生が自己判断した英語力を把握する。
- (2) 英語 I のより具体的な対象レベルや到達目標の設定に向けて、授業レベルや到達目標が学生のニーズを考慮したものとなるように、学生の英語力（自己判断）および、学生が目標としている英語力に関するデータを収集する。
- (3) 英語 II、英語 III、およびそれらの授業を組み合わせる体系的に英語力をつけるための共通教育特設プログラム（英語ステップアップ、英語国際コミュニケーション）の到達目標が学生の英語力および、学生が目標とする英語力に合致したものとなっているか、検証するためのデータを収集する。
- (4) 厳正な成績評価に向けた英語コア・スキルの制定や、そのコア・スキルの表記方法として、CEFR の Can-Do 表記が有効であるかどうか調べる。また、学生が目標とする英語力をどのような Can-Do 表記であらわすか、調査する。
- (5) 金沢大学の英語科目受講生および英語担当教員に、CEFR の Can-Do 表記を周知する。学生が能動的に自分の英語力を考え、それぞれのスキルについて、具体的にできる事とできない事を認識すると共に、将来どのような英語力を目標とするか、という事に関して、具体的なイメージを持つ自律的な学習者となることを促す。

4. 学生が自己判断した英語力

問 3 から問 7 で問うた英語力の自己判断結果をグラフにあらわしたのが、「図 1 自己判断した英語力」である。この図から、アンケートに答えた学生は、自分の英語力のうち、「読むこと」を最も高く評価し、次に「書くこと」を高く評価しており、ともに自分の力を B1 程度と考えている学生が多い事がわかる。「聞くこと」と「口頭による自己表現」は、共に自分の力を B1 と考える学生が最も多いが、A2 レベルと評価している学生も多く、いわゆ

るベルカーブにはなっていない。「会話に参加すること」は、A2 レベルと評価している学生が最も多く、他のスキルに比べて低い評価となっている。

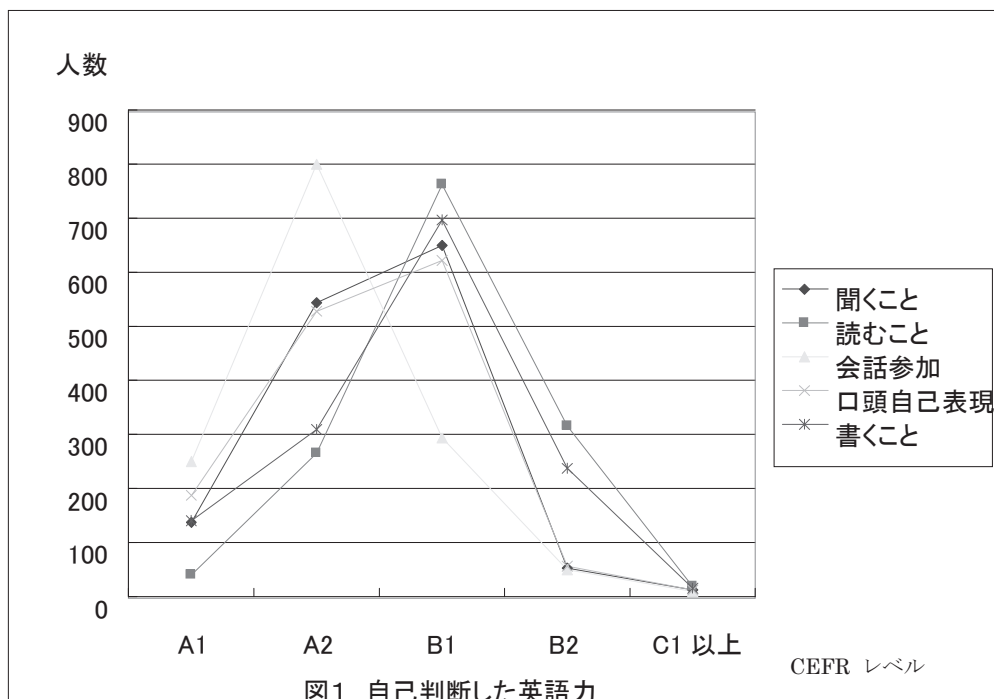


図1 自己判断した英語力

4.1 学類別の自己判断英語力

これらの問いに対する回答をスキルごとに分け、学生が自己判断した各レベルの学類別回答をパーセンテージであらわしたのが、付録 2 および図 2~6 である。

これらの数値から、文系学域では特に人文・法・国際学類で自己評価が高く、理工学域では全体的にやや評価が低く、薬保健学類では医・薬・創薬学類で評価が高くなっているが、各学類のグラフパターンは国際学類を除きほぼ類似していることがわかる。国際学類は、すべてのスキルにおいて他学類とグラフパターンが異なり、学生の自己判断英語力が他学類を大きく上回っている。これは、国際学類の学生が英語力に自信を持っているからとも言えるが、国際学類では英語Ⅱ科目の多くを専門科目と読み替えることを認めており、そのため上級生の受講者が他学類よりも多いことにもよると考えられる。(国際学類生の英語Ⅱ、英語Ⅲ受講者は、全受講者の3分の1となっている。) 金沢大学では各学域を2つのグループに分けて英語クラスの開講時間帯を振り当てており、このアンケート結果をグループ分けの妥当性検証に生かすことも可能であると思われる。しかし、本稿では各学類の違いを詳しく調べてグループの組み直しを考慮することはしない。これは、グループ分けの検証が今回のアンケートの目的ではなかったこと、各グループとも同じ科目名のクラスの範囲では授業に支障をきたすと思われるほどグラフパターンの異なる学類がないこと、また学域を超えて評価レベルの似ている学類を同じ時間帯に振り分けることが時間割上困

難なので、検証結果を短期的に時間割に反映できないことなどの理由による。

5. 学生の自己判断英語力を考慮した英語授業

金沢大学では多くの学生が一年次に履修する「英語Ⅰ」の授業が、リーディング、ライティング、リスニング、コミュニケーションの4技能に分かれている。平成24年度より「英語Ⅰ」で必修単位をそろえる場合は、それぞれの技能に焦点を当てる授業を一科目ずつ4つ履修することになる。(二年次に英語Ⅱ以上を二科目必修としている医学類を除く)そこで、ここでは学生が自己判断した英語力を考慮した各技能ごとの「英語Ⅰ」授業対象レベルについて考える。

リスニング

「聞くこと」では、A2とB1に自己判断レベルが集中し(A2に39.3%、B1に45.8%)、A1と判断している学生が全体で約10%、B2と判断した学生は国際学類を含めて非常に少ない(平均3.6%)ことから、A2からB1を主な対象レベルとしながら、基本的な音のつながりや弱化など英語を聞く上で必要な知識や練習も取り入れ、効率的に初級者を向上させる必要があると考えられる。

リーディング

「読むこと」では、A1レベル・C1レベルと自己判断した学生は非常に少なく、(A1 3.8%、C1 1.27%) B1レベルと認識している学生が約半数(54.7%)、A2・B2レベルと認識している学生が約20%ずついることから、B2レベルを主な到達目標としている英語Ⅱでリーディングの授業を開講すると共に、1年生のほとんどが履修する英語Ⅰにおいては、B1レベルの学習者を主な対象として、日常的な語彙・内容だけではなく一般的な語彙や内容も扱い、精読で初級者にも基本的な文法や語彙を定着させると共に、スキミングやスキヤニングである程度まとまった長さのテキストから必要な情報を取り出す練習もさせて、学生がこれまで培ってきた読解力を更に伸ばす工夫をする必要がある。

コミュニケーション

「会話に参加すること」は、大半の学生(57.7%)がA2レベルと認識していて、最も低い評価となっている。しかし、「口頭で自己表現すること」ではA2・B1レベルと認識している学生がそれぞれ38.3%と42.3%で、会話参加能力よりも評価は高くなっている。このことから、会話参加能力が低いのは、スピーキング自体が問題であると言うよりも、大学入学までの英語教育で会話練習の機会があまりなかったことに起因するとも考えられる。日本人学生同士の教室環境で、自然な会話練習の機会を十分与えることはなかなか難しいが、会話に参加するストラテジーをコア・スキルの一つとして意識的に練習する機会を与え、会話参加能力を高める必要があると思われる。

また、「会話に参加すること」においては、A1 または B1 と認識している学生がそれぞれ約 5 分の 1 (A1 が 18.5%、B1 が 19.7%) おり、このスキルにおいては学生が認識している英語力にかなりのばらつきがある。「口頭で自己表現すること」で A1 と認識している学生は 14.5%) 比較的上級者は、英語Ⅱでスピーキングを重視する授業を取ることができるので、英語Ⅰではスピーキング初級者への対応を考える必要がある。この分野の学生の自己判断結果は、他のスキルより全体で一段階程度低いので、「コミュニケーション」に関しては、対象レベルは A2 程度が妥当といえる。現在のガイドラインでは、A2 を主な対象レベルとしているので、現在の授業レベルがガイドラインに沿ってほぼ学生のニーズに合っていると思われるが、比較的高い評価となっている口頭による自己表現能力は、プレゼンテーション練習なども取り入れて更に伸ばしたい。

ライティング

「書くこと」は 48.6%の学生が B1 レベル、16.8%の学生が B2 レベルと認識しており、「読むこと」に続いて自己評価の高いスキルである。ただ、A1 と自己判断している学生も 11.1%いる。金沢大学では英語Ⅰ (ライティング) は平成 23 年度まで「中級基礎」「中級」「中級発展」の三段階の授業が用意されていたが、この能力別クラスが有効に機能していなかったために平成 24 年度からは、能力別クラスは廃止され、すべて同一レベルとなる。B2 以上の学生が受講できる英語Ⅱレベルの授業を用意し、能力のある学生がそれらのクラスを履修するよう指導することと共に、A1 レベルから B1 レベルまでの学生を対象とするため、ある程度個別化された授業形態も必要となると思われる。

6. 学生の授業レベル評価

表 1 は、問 8 (現在受けている授業のレベル判断) の 4 技能別該当者数を表にしたものである。

表 1 受講している授業のレベル判断 (問 8) の該当者数 (割合)

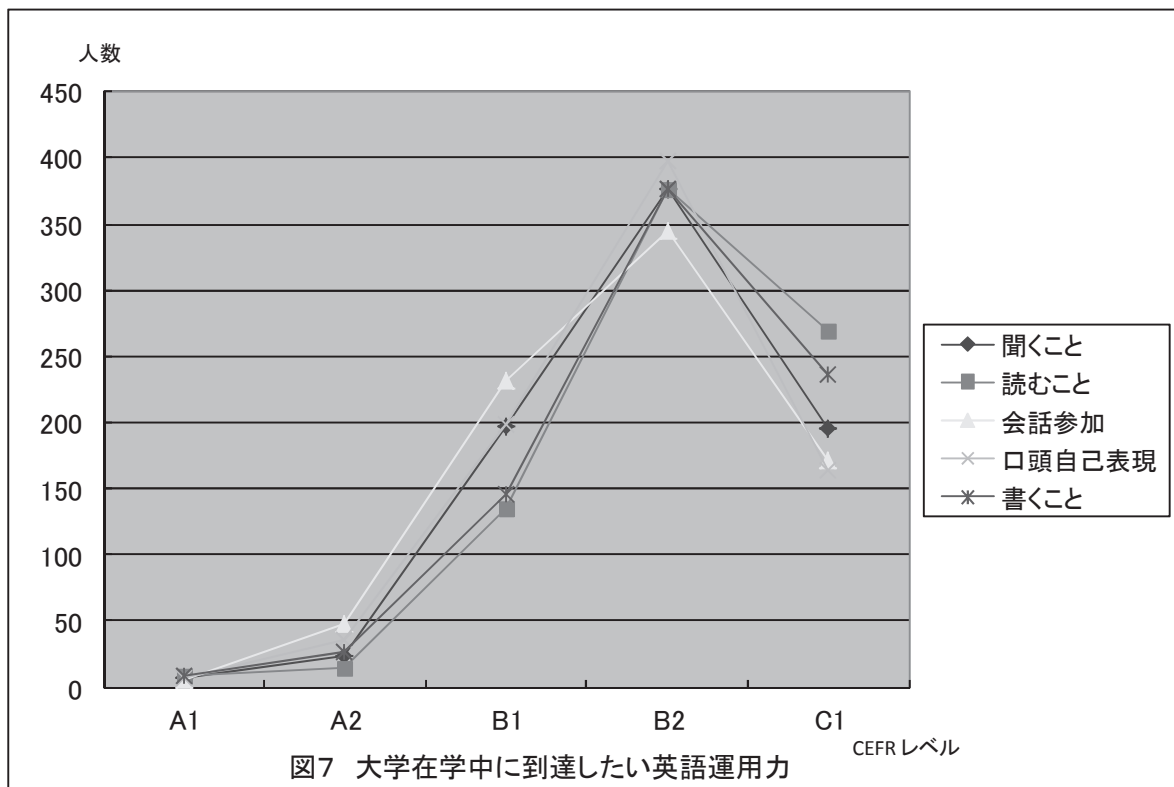
	A1	A2	B1	B2	C1 以上
該当者数 (%)	61 (3.8)	359 (22.3)	784 (48.9)	345 (21.58)	53 (3.3)

この割合は、学生の自己判断が最も高いリーディングの各レベル該当者数には近いが、それ以外の技能に比べると、高くなっており、自分のレベルよりも授業の対象レベルが高いと感じている学生が多いことがわかる。また、各クラス別の授業レベル判定では、一つのクラス内で 3 段階以上に認識が分かれているクラスが英語Ⅰの 61 クラス中 51 クラス、そのうち 4 段階以上に認識が分かれているクラスが 27 クラスあり、平成 22 年度までの授業到達目標や実際の授業内容からは、学生がその授業の対象レベルや到達目標レベルを明確に把握できていない現状が浮き彫りになった。この調査結果を受けて、平成 24 年度から

は、各技能別英語 I 科目にそれぞれ共通となる、より具体的な到達目標が設定される予定である。(各技能別クラスの到達目標は、平成 24 年度金沢大学 Web シラバス英語 I の各クラスを参照のこと。)

7. 学生が大学在学中に到達したい英語運用力

図 7 は大学在学中に到達したい英語運用力についての回答者数を示したものである。この図から、すべてのスキルで B2 程度の英語運用力を得たいと考える学生が最も多く、C1 を望んでいる学生も多いことがわかる。それぞれのスキルの回答をパーセンテージの数値で見ると、すべてのスキルにおいて、A1 を望んでいる学生は 1%以下、A2 を望んでいる学生は「会話に参加する」能力を除き 3%以下（「会話に参加する」能力は 5.9%）と非常に低い。B1 を望んでいる学生は「聞くこと」および「口頭で自己表現すること」でほぼ 4 分の 1（それぞれ 24.6%と 24.7%）、「読むこと」と「書くこと」で 6 分の 1 程度（それぞれ 16.8%と 18.3%）、「会話に参加すること」では A2 よりも少なく 2.9%となっている。すべてのスキルにおいて、B2 を望んでいる学生は半数近くおり、（それぞれ「聞くこと」47.1%、「読むこと」46.9%、「会話に参加すること」43%、「口頭で自己表現すること」49.6%、「書くこと」47.6%）、C1 を望んでいる学生も「会話に参加すること」と「口頭で自己表現すること」で 5 分の 1 程度（それぞれ 21.3%と 20.5%）、「聞くこと」で 4 分の 1 程度（24.5%）、「書くこと」で 29.8%、「読むこと」で 33.5%となっている。このことから、金沢大学で 23 年度より始まった共通教育の英語特設プログラムの「英語ステップアップ」（到達目標 B2 レベル）と「英語国際コミュニケーション」（到達目標 C1 レベル）は、共に学生のニーズに合っているとと言える。



8. おわりに

今回のアンケートでは、CEFRのCan-Do表を使うことによって、それぞれのスキルごとの学生の自己判断英語能力をより細かく見ることができた。スキルによって、レベルの違いが見られ、学生もCan-Do表を使うことにより、それぞれの語学スキルに関して、自分の得意分野や苦手分野をより具体的に把握できたと思われる。プロジェクトAは、このアンケート結果も考慮した各技能別英語I科目の到達目標を、金沢大学共通教育英語科目を運営する英語グループに提案し、英語グループでの議論も経て、平成24年度に新たな英語I技能別共通到達目標がCan-Do表記で作成された。来年度に向けては、今回のデータを更に細かく分析するとともに、作成された到達目標に基づいた厳正な成績評価の実現にむけて、調査・研究を続けてゆきたい。

今回のアンケート調査に参加して下さった学生の皆さんと、アンケートを実施して下さった英語担当教員の皆さんにお礼を申し上げます。

付録1 アンケート用紙(裏)

問6 口頭で自己表現すること

1. A1 2. A2 3. B1 4. B2 5. C1 以上

問7 書くこと

1. A1 2. A2 3. B1 4. B2 5. C1 以上

問8 あなたが今受けている授業は、どのレベルの授業であると思いますか。

以下より選んで下さい。

1. A1 2. A2 3. B1 4. B2 5. C1 以上

問9 あなたがこの授業で学期末までに到達したいと思っているレベルを選んで下さい。

1. A1 2. A2 3. B1 4. B2 5. C1 以上

あなたが大学在学中に到達したいと思っている全体的な英語運用力を選んで下さい。

問10 聞くこと

1. A1 2. A2 3. B1 4. B2 5. C1 以上

問11 読むこと

1. A1 2. A2 3. B1 4. B2 5. C1 以上

問12 会話に参加すること

1. A1 2. A2 3. B1 4. B2 5. C1 以上

問13 口頭で自己表現すること

1. A1 2. A2 3. B1 4. B2 5. C1 以上

問14 書くこと

1. A1 2. A2 3. B1 4. B2 5. C1 以上

問15 あなたは英語で、具体的にどのような事ができるようになりたいですか。

自由に記述して下さい。

例：海外旅行した時、英語を使って買い物したい。

仕事で英語のメール文を書けるようになりたい。

ご協力ありがとうございました。

*CEFR 表は各自持ちかえって保存し、今後の言語の学習に役立ててください。

付録 2 : 学生がスキルごとに自己判断したレベル (学類別人数)

聞くこと

	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1 以上
人文	7	40	50	2	1
法	9	34	47	7	3
経済	6	41	50	3	0
学校教育	6	43	49	1	1
地域	13	47	38	1	1
国際	2	23	67	7	1
数物	10	47	39	4	0
物質	16	41	41	2	0
機械	16	40	37	7	0
電子	13	44	40	2	1
環境	17	52	31	0	0
自然	14	34	45	5	0
医学	9	26	59	6	0
薬・創薬	8	36	52	4	0
保健	12	42	42	3	1

読むこと

	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1 以上
人文	2	8	57	30	3
法	9	34	47	7	3
経済	1	17	61	21	0
学校教育	2	23	55	19	1
地域	3	26	57	13	1
国際	0	8	47	44	1
数物	0	35	49	16	0
物質	8	12	56	12	0
機械	7	22	49	21	1
電子	3	30	57	9	1
環境	8	33	50	9	0
自然	3	16	68	13	0
医学	4	12	42	34	8
薬・創薬	4	4	76	16	0

保健	3	26	49	22	0
----	---	----	----	----	---

会話に参加すること

	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1 以上
人文	18	62	19	1	0
法	15	53	27	4	1
経済	14	58	22	5	1
学校教育	15	63	16	5	1
地域	25	61	13	0	1
国際	2	47	41	8	2
数物	20	66	10	2	2
物質	22	62	14	2	0
機械	21	54	21	3	1
電子	22	55	16	6	1
環境	28	56	13	3	0
自然	21	60	16	3	0
医学	15	52	29	4	0
薬・創薬	20	60	18	2	0
保健	20	56	21	3	0

口頭で自己表現すること

	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1 以上
人文	9	39	49	2	1
法	9	25	58	7	1
経済	11	36	49	3	1
学校教育	10	37	47	5	1
地域	19	42	37	1	1
国際	1	30	59	9	1
数物	14	53	31	2	0
物質	20	39	35	4	2
機械	16	43	36	3	2
電子	17	42	36	3	2
環境	25	37	36	2	0
自然	21	36	40	3	0
医学	15	32	43	10	0

薬・創薬	14	38	42	6	0
保健	16	46	37	1	0

書くこと

	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1 以上
人文	6	14	57	22	1
法	7	14	52	24	3
経済	7	18	60	14	1
学校教育	7	26	53	12	2
地域	21	25	43	10	1
国際	1	9	43	45	2
数物	12	27	45	16	0
物質	20	24	44	12	0
機械	13	31	40	15	1
電子	12	37	43	7	1
環境	14	28	50	8	0
自然	18	15	57	10	0
医学	8	22	42	25	3
薬・創薬	10	18	52	20	0
保健	11	27	49	12	1

